

# しまなみスピーチサミット

リヴェラ陽子

12月10日。晴天といえども寒いその日に、しまなみスピーチサミットは3周年を迎えました。多岐に渡るテーマで書かれた素晴らしいスピーチが11作品、また3人の講師によるワークショップも開かれました。各スピーチが発表された後には多くの質問が飛び交い、その活発な質疑応答はワークショップ中にも見られました。会場全体に親しみのある温かい雰囲気を感じられ、中にはワークショップで自信を持つことができ、人前で話す勇気を得たと言う参加者もいました。しまなみスピーチサミットは参加者が自分の限界に挑戦し、次のステージへステップアップできるようサポートします。多くの方々のお力のおかげでこのイベントは成長し続けています。しまなみスピーチサミットはあなたの参加を楽しみにしています。今年の12月のイベントにあなたも参加してみませんか。

## 完璧なコロッケ

曾我部真央

ドン!ドン!ドン!「出てきなさい!」ドン!ドン!涙が頬を伝いました。私は真っ暗なトイレの中にいました。きっかけはくだらない口喧嘩でした。夕食後、私がスマホを使いながらテレビを見てると、母が尋ねました。「今日勉強したの」私は母を無視してスマホを使い続けました。所謂、反抗期というやつです。「どうしてお母さんの言うことを聞かないといけないの」私がそう考えていると、母が続けました。「Wi-Fi切るよ」いつものように母の脅しが始まったのです。普段なら、私はその時点で勉強を始めるのですが、あの時は違いました。「切れば?切ってもスマホ使えるし」「じゃあスマホ預かるわ」母がスマホを取ろうとしたので、私はトイレに逃げ込んで鍵をかけました。「出てきなさい!」「嫌よ!勉強なんかしたくないし、もうここに住むもん!」暗くて寒いトイレの中で、こみ上げる怒りに任せて私はトイレットペーパーをちぎっていました。「学校はどうするの」母が叫びました。「二度と行かない!」「いい加減にしなさいよ」「放つといて!」正直に言うと、私はトイレから出て、母に謝りたかったのですが、引くに引けなくなっていました。しばらくして、母が言いました。「もう出てきて」母は歩み寄ろうとしていたのですが、私は自分を止められず母をもっと傷つけました。結局、私はお風呂に入るためにトイレから出たのですが、未だに母に謝れずにいます。

数日間、私たちはぎこちなく過ごしましたが、母が私にコロッケを作らないか聞きました。母は口にしませんでしたが、仲直りをしようとしているのはわかりました。母は料理が上手です。いつもとてもおいしい料理を作ってくれます。母を手伝いながら、私は母から料理の仕方を学んでいます。その時はコロッケを作りました。ジャガイモを茹でてお湯を捨てる時、とてもいい匂いがしました。その間、母は他の野菜を準備しました。そしてその野菜とジャガイモを混ぜました。それから、母はコロッケを形成して揚げました。揚げる時にはとてもおいしそうなお音がしました。鍋から取り出すとできたてのコロッケの完成です。簡単そうに聞こえますが、私は母のようににはできません。「スマホで友達と話をして楽しむのも大切よね」一緒にコロッケを作りながら母はそう言って私の手元を見ました。「力を入れすぎるからコロッケが壊れるの。落ち着いて、優しくね」母は笑っていました。母の手には完璧なコロッケが乗っていました。「うるさいな～」私は素直になれずに母を肘で小突きました。

友達との喧嘩は喧嘩をしても仲直りをするか、どちらかが謝って喧嘩の終わりをはつきりさせます。時にはその結果に納得ができないこともあります。しかし、私がどんなに頑固な時でも、気が付けば家族とはいつの間にか話をしています。酷いことを言うこともあります。家族には何でも言いたいことを安心して言えます。母の歩み寄りが無かったら、私はきっとまだ母と喧嘩をし続けていたでしょう。私は正しいことを教えてくれて私を導いてくれる母に感謝しています。私は周りの人のことを考えられる人になりたいです。母のように優しい人になって争いを避けたいです。いつか、私も大きくて豊かなコロッケを作れる人になりたいです。